

受け継いだ社の看板を守るべく 確かな施工で信頼を紡ぎ続ける

とび土工事や造成工事などを手掛けている『旭興業』。同社は谷社長の父親が立ち上げた会社で、台風などの自然災害から町を守る工事で評判を集めている。本日は、タレントの黒田アーサー氏が同社を訪問し、力強く社を牽引している社長にお話を伺った。

INTERVIEW

亡き父親が作った会社を再興すべく 家族と協力して事業に邁進

黒田 『旭興業』さんは、谷社長のお父様が創業されたと伺っています。

谷 はい。当社では主にとび土工事や造成工事などを手掛けていますが、その礎を築いたのは父になります。地元である桑名は伊勢湾台風の際に大きな被害を受けた地域だったことから、自然対策工事に力を入れようと父は考えていたそうで、ある会社で修業をした後、独立して『旭興業』を立ち上げたとか。しかし、父は私が小学校高学年の時に事故で他界してしまっ……。

黒田 なんと……若くしてお父様を亡く

されてしまったのですね。

谷 はい。父の背中を見て育ちましたし、姉弟の中で男は私だけということもありましたから、早くから「父と同じ仕事に就こう」と考えていました。ですから、学業修了後はすぐに当社に入ったんです。

黒田 当時はどなたが会社の舵取りを担っておられたのでしょうか。

谷 おじですね。おじは社を存続させようと奮闘していましたが、色々な不幸が重なったこともあって、私が入ってしばらくしたころ、やむなく民事再生することになったんです。その後、紆余曲折を経て再起を果たしました。しばらくはおじが社長職を務めてきましたが、5年ほど前におじが他界したことから母が受け継ぎ、事業を継続してきました。そして、昨年に私が代表職に就任したんです。

黒田 どん底から這い上がってこられた

のはすごいことだと思います。かなりの苦勞をされたのでしょうか。

谷 そうですね。私が入社した半年後に、会社は民事再生することになったんです。何とか再起を果たすことができましたが、それもこれも色々な方々に助けていただけたお陰。特に、鈴鹿にある会社の社長には、本当にお世話になりました。母の知り合いで、父のことも知っていたことから、手を差し伸べて下さったんです。

黒田 人の縁のお陰で、今の御社があると。それだけお父様は良いお仕事をされ



黒田 アーサー (タレント)

お父様が立ち上げた会社のために全力を尽くされてきた谷社長。見事再起を果たせたことを、天国でお父様も喜んでいらっしゃるでしょう。大きな困難を乗り越えてきた経験は、必ず今後活かされるはず。是非頑張ってくださいと思いますので、陰ながらではありますが、応援しています！

COMPANY DATA

株式会社 旭興業

三重県桑名市多度町猪飼 1251 番地 11

ていたのでしょうか。社長から見て、お父様はどんな方でしたか。

谷 強面ではありましたが、非常に優しい人でした。厳しく叱られたという思い出は全くありませんね。地域ではとても有名だったようで、今でも父の話を耳にすることが多々あります。時に比較されることもありプレッシャーを感じますが、父が築いた土台があるからこそこうして仕事ができているわけですから、偉大さを感じると同時に、感謝もしています。「いずれは父に追いつき、そして父を追い越すんだ」と奮起して、仕事に臨んでいます。容易ではありませんね。

揺るぎない決意と覚悟のもと 父親が見つけた会社を守り続ける

黒田 現在御社には、何名ぐらい従業員さんがいらっしゃるのでしょうか。

谷 およそ20人ですね。皆とても頼りになりますので、安心して仕事を任せられますね。

黒田 では、頻りに飲み会などをされて交流を図られているのですか。

谷 そうしたいのはやまやまなのですが、取引先の方々との交流で忙しく、地元の友人とも年に1~2回しか飲みに行けない状態なんです（苦笑）。私は年上の方でもはっきりと言うことは言うタイプなんです。自分でも生意気だと思うのですが、そうした部分をとても可愛がって下さる方が多くて、本当に人に恵まれたなと感じています。

黒田 どんな人にも自然体で接する姿に、魅力を感じていらっしゃるのでは

うね。しかし、経営者となった今では悩むこともあるのではありませんか。

谷 色々な人に支えてもらっていることもあって、悩むことは少ないですね。会社経営に関しては母から後継ぎ以前から携わってきまして、従業員とも取引先とも良好な関係を築けていますので、仕事はとても順調ですね。しいて上げるなら、後継ぎのことでしょうか。私には4人の息子がいて、誰に後継ぎを継がせようかというところが悩みの種ですよ（笑）。

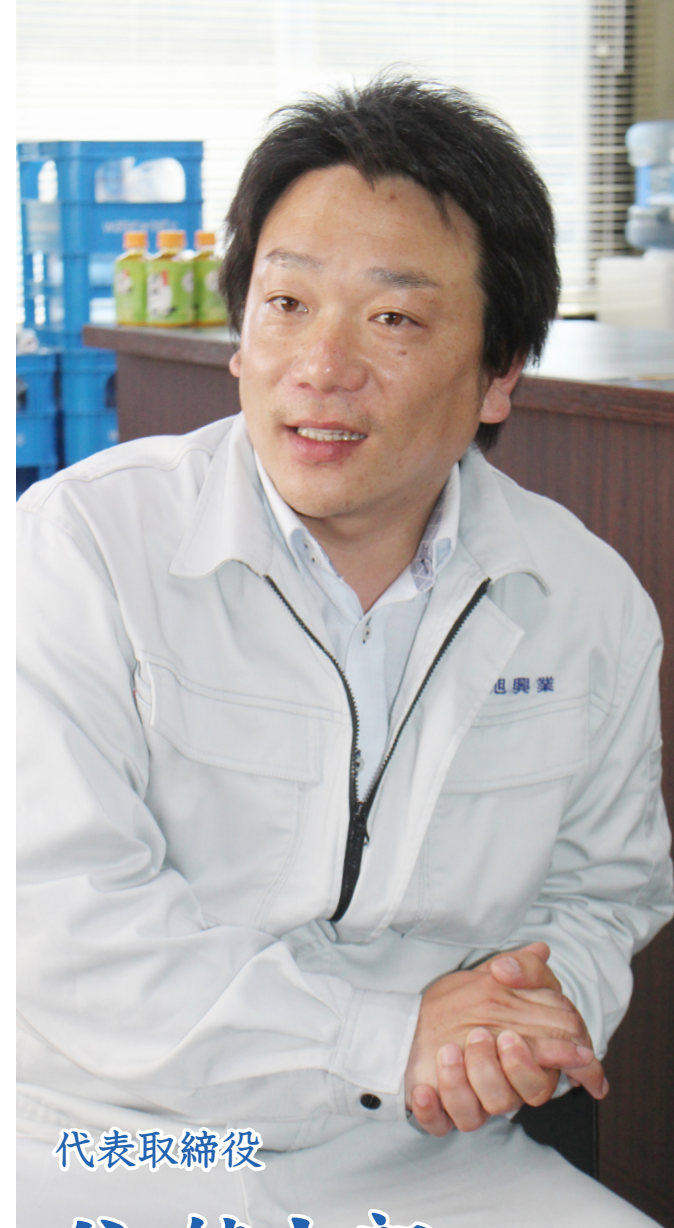
黒田 もう既に社長の背中を見て、後継ぎを意識している子がいるかもしれませんね。お父様の会社の再起に力を尽くされてきたわけですが、つらい中でもがんばられた要因は何だったのでしょうか。

谷 やるしかないという気持ちですね。父の会社を建て直すために、毎日忙しく仕事に励んでいましたので、悩む暇も考える暇もなかったと思います。

黒田 最後になりますが、今後の夢をお聞かせ下さい。

谷 現状を堅持していくことです。また、毎日忙しくしておりますので、ゆっくり休める時間をつくっていききたいですね。これからも従業員たちと力を合わせて工事に臨み、確かな施工で以て社の看板を守っていく所存です。

(2017年4月取材)



代表取締役

谷 健太郎

幼少期より父親の背中を見て育ったことから、学業修了後すぐに家業にはいる。入社から半年で民事再生しなければならなくなるも、社を立て直すべく奮闘し、見事再起を果たした。昨年母親から社長職を受け継ぎ、現在に至る。

いつ訪れるか分からない自然災害に備えて

▼『旭興業』の創業者である谷社長の父親は、津波などの自然災害に備える工事を主体に修業を積んできたそうだが、そのきっかけとなったのは中京地域に甚大な被害をもたらした「伊勢湾台風」だった。勢力が衰えないまま本土に上陸したこの超大型の台風は地域をことごとく破壊し、多くの人が被災し、数千人の命を奪った。災害の備えである防波堤が破壊されてしまったことも、被害を拡大した要因になったという。いつ訪れるか分からない自然災害に備えなければ——そんな思いが、社長の父親をその道へと誘ったのだろう。父親は社長が子どものころに事故で他界してし

まったため社長は直接父親と一緒に仕事をできなかったが、父親の遺志をしっかりと受け継いで、確かな施工を続けている。子どものころに見てきた父親の背中から、様々なものを学び取っていたのだろう。

▼自然の猛威から人々を守るため、一切妥協のない姿勢で工事に臨んでいる社長。その胸には、かつて同じ分野で活躍していた父親と同じように、「自然災害に備えなければ」という意識が根付いているのだろう。